

○大学時代と全国国公立大会

1982年4月、一橋大学に入学した私は同級生に誘われるまま卓球部に入部しました。中学、高校と卓球をやっていたこともあり、そこそこは通用するかな、と思っていたのもつかの間で、強い先輩方が沢山いて「これは大変だな」と思ったことを覚えています。しかし、中学・高校の設備（床はコンクリートでした）に比べると、広くて明るい体育館で思う存分練習ができる環境であり「大学ってすごいな」とも思いました。東京生まれ東京育ちの私は、「全国」と名がつく大会などまったく無縁でしたので、「全国国公立卓球大会」という名称を聞いた時も、はじめは全くイメージが湧きませんでした。実際に出場してみると、レベルも高く「全国ってこんなに大勢の卓球選手がいる！」と驚きました。ただ、私の入学した1982年と85年には開催地が東京だったのですが、東京開催であったにもかかわらず、あまり大した成績も残しておらずでしたので、今となっては記憶もあいまいになってしまっています。（83年大阪、84年名古屋の全国国公立大会の記憶は色々とはあるのですが…）

ただ、それでもはっきりと覚えているのが、当時の世界チャンピオンの中国の郭躍華選手が来日していらして（関係各位の大変なご尽力があったのででしょう）、デモンストレーションを披露していただいたことです。一橋大学が幹事校を務めていた関係で、一橋大学小平校舎内の体育館だったと思いますが、文字通り世界のトップの超絶技巧！を本当に間近で見ることができ、記念に握手もしていただいたことははっきりと記憶に残っています。その意味では、全国国公立大会は、私にとって日本「全国」の広さと「世界」の広さを感じることでできた大会でした。

○そして社会人での「全国」へ

その後、1986年に卒業し、東京ガス株式会社に就職し、大学の卓球部の先輩方がいらしたご縁で卓球を続けることになりました。当時も、今も、東京ガス株式会社卓球部は、企業チームとして仕事との両立をしながら東京都の予選を勝ち抜き「全日本実業団卓球選手権」に出場することを目標に活動しております。私が入社した年には岐阜市で開催された大会に出場できました。それから10年ほどは現役の選手として活動をしておりましたが、30歳を過ぎたころに引退をしました。以降、時々遊びでは卓球をやることもありましたが、いつの間にかルールも変わり（自分は1セット21点の世代です）、ボールも40mmに大きくなり、ラバーやラケットも進歩し、新しい技術（チキータ、YGサーブ等々）が登場しと、卓球という競技が非常に大きく進歩した感があります。

そして、6年ほど前に東京ガス株式会社卓球部の部長を仰せつかり、久しぶりに本気で「勝利を目指す」競技の世界に戻ってきました。コロナ禍という大変な時期に直面し2年間大会が中止されましたが、コロナ禍が明けた一昨年の全日本実業団卓球選手権大会では準優勝、昨年の大会ではベスト8と素晴らしい結果とともに、選手の頑張り・関係者のサポート・ご家族のご支援までが一体となって目標に向かう日々を過ごすことができました。(偶然ですが昨年の大会は自分が社会人となって初めての大会と同じ場所の岐阜市での開催でした。)

60歳となり、昨秋に部長職を後進に任せ再び一卓球ファンに戻りましたが、今後も会社のチームのサポートと応援を続けていきながら、仲間たちと「全国」や「世界」の広さをもう少し知りたいと思う日々が続いています。

写真1 大学最後の大会にて

写真2 昨年の全日本実業団卓球選手権会場にて(最前列右から2人目が筆者)